女子はメダル独占。男子は田山が2位

2007ASTCアジア選手権トンヨン大会速報2

女子優勝は関根。2位に上田、3位が井出

6月2(土)、昨日に引き続き韓国・トンヨン市特設コースで2007ASTCアジア選手権が行われた。

前日よりも気温が下がり、やはりウエットスーツは着用許可。午前10時スタートの女子は、韓国の新鋭ジャン・ユンジャンがスイムをリード。第2集団は井出樹里(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN 'S)が先頭に立って引っ張る。後ろに続くのは、リュウ・ユン(中国)、ユ・シュジュン(中国)、ナム・ナエン(韓国)。その後ろに上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)、庭田清美(アシックス・ザバス)、高木美里(湘南ベルマーレ)の日本勢が続いた。

バイクに入るとすぐにジャンが下がり、ここからは前述の5名の日本勢と、ワン・ホンニを含む中国勢4名が第1集団を形成してレースは進んだ。

バイクからランへのトランジションへこの9名が飛び込んだが、最初にランへ出たのはワン。すぐにあとを日本選手が追いかける展開となった。

ラン1周目こそワンがリードしたが、1周目終盤で井出がトップに立つと、ワン、上田、関根の4名によるデッドヒートが始まった。

3周目に入るとワンが遅れだし、日本選手3名による競り合いが続いた。そして、ラスト1kmでスパートしてレースを制したのは、ベテランの関根だった。関根は、1999年のアジア選手権ソクチョウ大会で優勝してから、当選手権4勝目となった。

2位は、よく後を追った上田が入り、

スイムで前を追う福井(右)と細田

集団をリードする井出。後ろはワン、右は上田

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー
NTT東日本 NTT西日本
Kyorin JAL arena Amino-Value SOYJOY
asics TAIHEI resort trust SKY
日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所 B&G

社団法人日本トライアスロン連合 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F
TEL:03-5469-5401(代) FAX:03-5469-5403 Email:jtuoffice@jtu.or.jp URL:http://www.jtu.or.jp/

女子はメダル独占。男子は田山が2位

2007ASTCアジア選手権トンヨン大会速報2

3位には、このレースの立役者ともいえる井出が入った。
午後1時15分スタートの男子は、スイムから山本良介（トヨタ車体）が集団をリードした。
最初に水から上がったのはやはり山本良介でタイムは18分23秒。後続は、28秒後から14名が入る混戦となった。
バイクでは、山本良介が逃げるなか、この14名が第2集団となり、1周目で山本良介を飲み込んだ。
しかし、4周目終盤にまたも山本良介が抜け出し、30秒強の差を付けてランへ移った。
ランでは、山本良介がすぐに下がりはじめ、変わってトップに立ったのはダニール・サプノフ（カザフスタン）。それをマークするのは細田雄一（ウイダー）と田山寛豪（チームテイケイ）となった。
3周目で田山が遅れ始めると、イワン・モロゾフ（ウズベキスタン）が追いついてきた。そして、サプノフがスパートして、アジア選手権初優勝となった。レース後サプノフは、「この選手権のために厳しい練習を重ねた。勝てて嬉しい」とコメントした。
2位争いは、細田、田山、モロゾフに絞られたが、昨年の優勝者・田山が競り勝った。3位はモロゾフ、4位は細田となった。
なお、レースの模様は、フォトギャラリーでご覧になれます。

関根　明子
（NTT東日本・NTT西日本）

韓国で2勝目。ここの気候は乾いていて気温が低いのでレースしやすい。ランで上田、井出選手と3名になったが、二人との競り合いははじめて。力量が分からないので、序盤は慎重にいった。でも、最後は勝ちたい気持ちが強く、機を見てスパートした。

上田　藍
（シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター）

得意とするランの競り合いのレースでやっと結果を残せて、少は自信になった。バイクで中国の選手たちはワン選手を逃がそうとしていたが、日本選手は協力して逃がさなかった。私はスプリンターではないので、早めに仕掛けたが、関根選手についてこられてしまった。

井出　樹里
（トーシン・日東紅茶・TEAM KEN ‘S）

ランの最初にワン選手の前に出たのは、そのときにリズムよく走れていたから。リードしようという気持ちはなかった。その後は、自分のペースを保つことに心がけた。関根選手も上田選手もどこかで出てくると知っていたが、うまく反応できなかった。とても勉強になった。

田山　寛豪
（チームテイケイ）

今日は、3種目ともペースがつかめず、いいレースができなかった。前日の練習でランが走れていたので、それにかけた。2連覇がかかっていたので、それだけを考えてレースした。細田選手とサプノフ選手が逃げたときはきつかった。しかし、アジア大会を思い出して頑張った。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合（JTU）オフィシャルスポンサー＆オフィシャルパートナー
NTT東日本 NTT西日本 Kyorin JAL arena Amino-Value SOYJOY asics TAIHEI resort trust EKTAS 日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所 B&G

社団法人日本トライアスロン連合　東京都渋谷区渋谷2-9-10　青山キングビル3F
TEL：03-5469-5401（代）　FAX：03-5469-5403　Email：jtuoffice@jtu.or.jp　URL：http://www.jtu.or.jp/